

危機管理マニュアル

- ① 不審者侵入
- ② 学校管理下での事故
- ③ プール事故
- ④ 熱中症発生時
- ⑤ 感染症対応
- ⑥ 食物アレルギー

令和六年度

諸塚村立荒谷小学校

荒谷小学校 不審者対応マニュアル

平成30年8月作成

令和4年12月改訂

事前の危機管理

- ・ 来校者の対応は正面玄関からのみとする。1F理科室前、2Fランチルーム前は施錠する。
- ・ 関係者の来校が予定されている場合は、職朝等で事前に全職員へ周知する。

関係者以外の立ち入り

正当な理由なし

退去を求める ※必ず複数で

退去しない

退去した

再び侵入したか

侵入した

正当な理由あり

受付に案内

必ず目的地まで職員が案内する。
→単独で行動している者＝不審者

通報する・児童の安全を守る ※避難場所：ランチルーム→体育館（原則）

- ① 全職員への緊急連絡
→迷わず非常ベルや放送をならす。
→「荒小集会」が不審者発見の合図
- ② 警察への通報
- ③ 児童の掌握
- ④ ランチルームに避難する。入り口を塞ぐ。
- ⑤ 防御（さすまた等）
- ⑥ 教育委員会への緊急連絡
- ⑦ 保護者への連絡

負傷者がいるか

いない

いる

応急手当などをする

『学校管理下での事故の対応』に
則り迅速に対応する。

事後の対応や措置をする

- ① 情報の整理と提供
- ② 心のケア
- ③ 保護者等への説明
- ④ 教育再開への準備、再発防止対策

役割分担 ※あくまでも原則であり、状況に応じて対応する。

- ① 全体指揮・外部との対応：校長・教頭
- ② 保護者等への連絡：教務主任
- ③ 避難誘導・安全確保：全職員
- ④ 不審者への対応：発見者等（必ず複数で）
- ⑤ 応急手当：養護教諭
- ⑥ 電話対応・記録：事務職員等

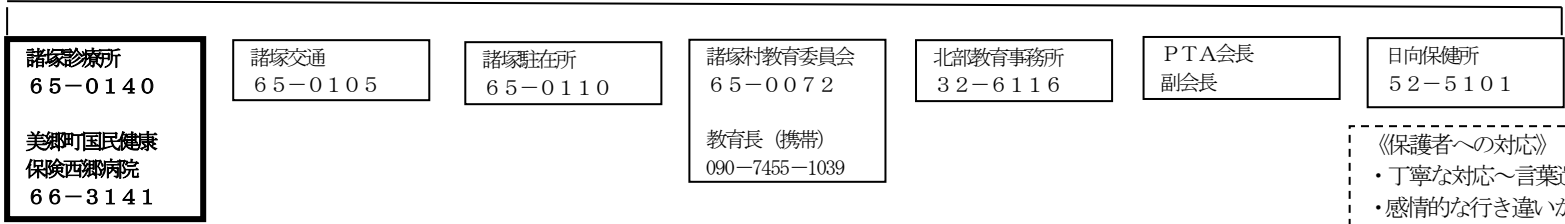
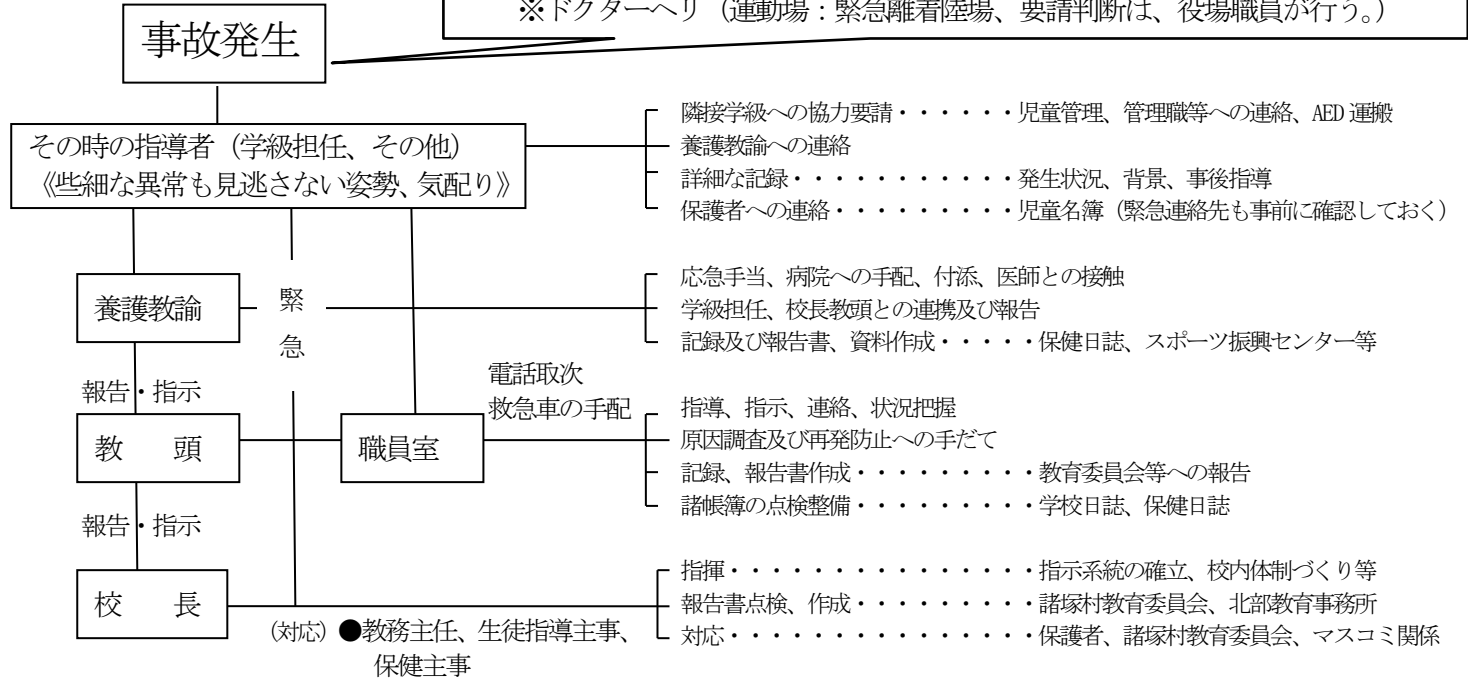
学校管理下での事故の対応

(通常)・・・安全に留意した積極的な教育活動～事故防止・事故の予知
事故報告の要件 (第1次)

119番通報または**管理職車両による近隣病院への搬送**
救急車 (運転手: 役場職員、救急処置: 諸塚診療所の医師、看護師)
管理職車両 (付き添い: 養護教諭)
※ドクターヘリ (運動場: 緊急離着陸場、要請判断は、役場職員が行う。)

諸塚村立荒谷小学校
諸塚村大字家代6159
0982-65-1120

- 1 **だれが**
学年、学級、児童氏名
- 2 **いつ**
日時、校時、授業名
- 3 **どこで**
運動場、教室など
- 4 **どんな事故**
骨折、鼻血、転落、溺れなど
- 5 **事故の程度**
出血多量、仮死状態など
- 6 **状況**
現場にいた教師、児童名、様子など



- 《保護者への対応》
- ・丁寧な対応～言葉遣い
 - ・感情的な行き違いがないようにする
 - ・事実の報告～正確な記録
 - ・不安感を与えない
 - ・連絡を密にする
 - ・軽はずみな約束などしない
 - ・見舞う (訪問)

プール事故防止及び事故対応

I プールでの事故事例及びその配慮

プール3大事故<日本体育施設協会 水泳プール部会より>

	日・場所	内 容
吸い込み事故	埼玉県	小学校2年生女児 市民プールの縦60cm 横120cmの排水溝に吸い込まれた。
飛び込み事故	山形県	小学校5年女児 プールの底で頭をうち大けが。児童23人がプールに入り教師3人が指導していた。
溺水・水没 事故	H22 延岡 ヘルストピア H22 福岡	東小学校4年女児 学年遠足で児童96名と(約40分の間)泳いでいたところうつぶせの状態で見えられた。なお教諭4名の他監視員がいた。 小学校6年女児 プール開きで25Mを泳ぎきった後、あおむけの状態で見えられた。児童100人がプールに入り、教師5人が監視にあたっていた *25Mの記録をとっていた。

配慮事項： プール施設の安全管理、万全の指導体制、健康観察の重視

II Iの配慮事項から重視する3つの確認事項

①<事前確認>

- 排水溝の設置安全確認(プール掃除時)
- 危険箇所の確認
 - ・溝 ・はしご ・排水溝
- 安全具の準備
 - ・笛 ・浮き袋 ・AED
 - ※ CRP、AEDの技術習得
- プール底・サイドの異物確認(授業前)
 - ・ヘアピン ・石 ・木

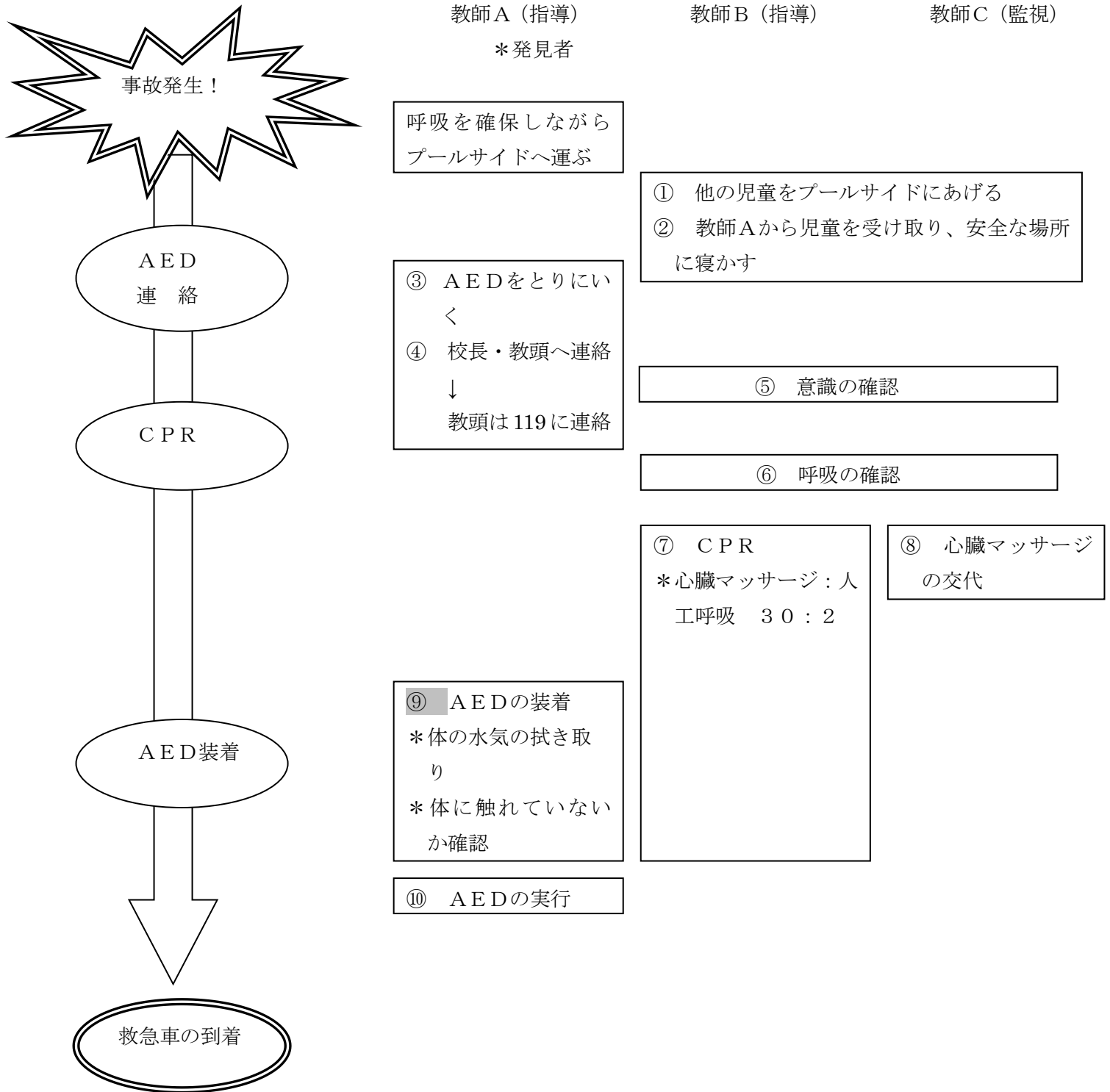
②<授業中での確認>

- 健康観察、カードで児童の健康状態をチェックしておく。
- 急激な準備運動はさける。(血管の収縮を避ける)
 - ・健康状態の最終確認
- 児童に安全の意識をもたせる。
 - ・バディなど
- 急激な活動はさける。
 - 例) 手足から水につける→水慣れ→活動→整理運動
- 見学児童は日陰で待機させる。
 - *動ける児童は監視をさせる。

③<監視のポイント確認>

- 「もし溺れたら・・・」ではなく、「必ず溺れる」という意識で監視する。
- 緊急時の自分の動きを意識しておく。
- プールサイド、飛び込みの注意
- 水泳が得意な児童にも注目 *得意な児童の方が溺れやすい
- 変化のある場所に注意をする。
 - ・排水溝 ・はしご ・サイドの溝
- 基本的に立って監視する。
- AED、うきわ など救急・安全具を身近に置いておく。

Ⅲ 事故発生時の対応（3人の場合）



水難事故「^{ゼロ}0」！

家庭でできる3つのこと

1 フールでは、3つの点に注意する。

- ① 急に水につからないようにする。
- ② 施設の確認（排水溝、はしご、溝）
- ③ 走らせない、飛びこませない。

2 海、川での遊泳の時には子どもから目を離さないこと

必ず夏休みには、水難事故で命を落とすニュースがあります。

自分の子どもは自分で守るように心がけるようにしましょう。

（* 監視員を当てにしない。）

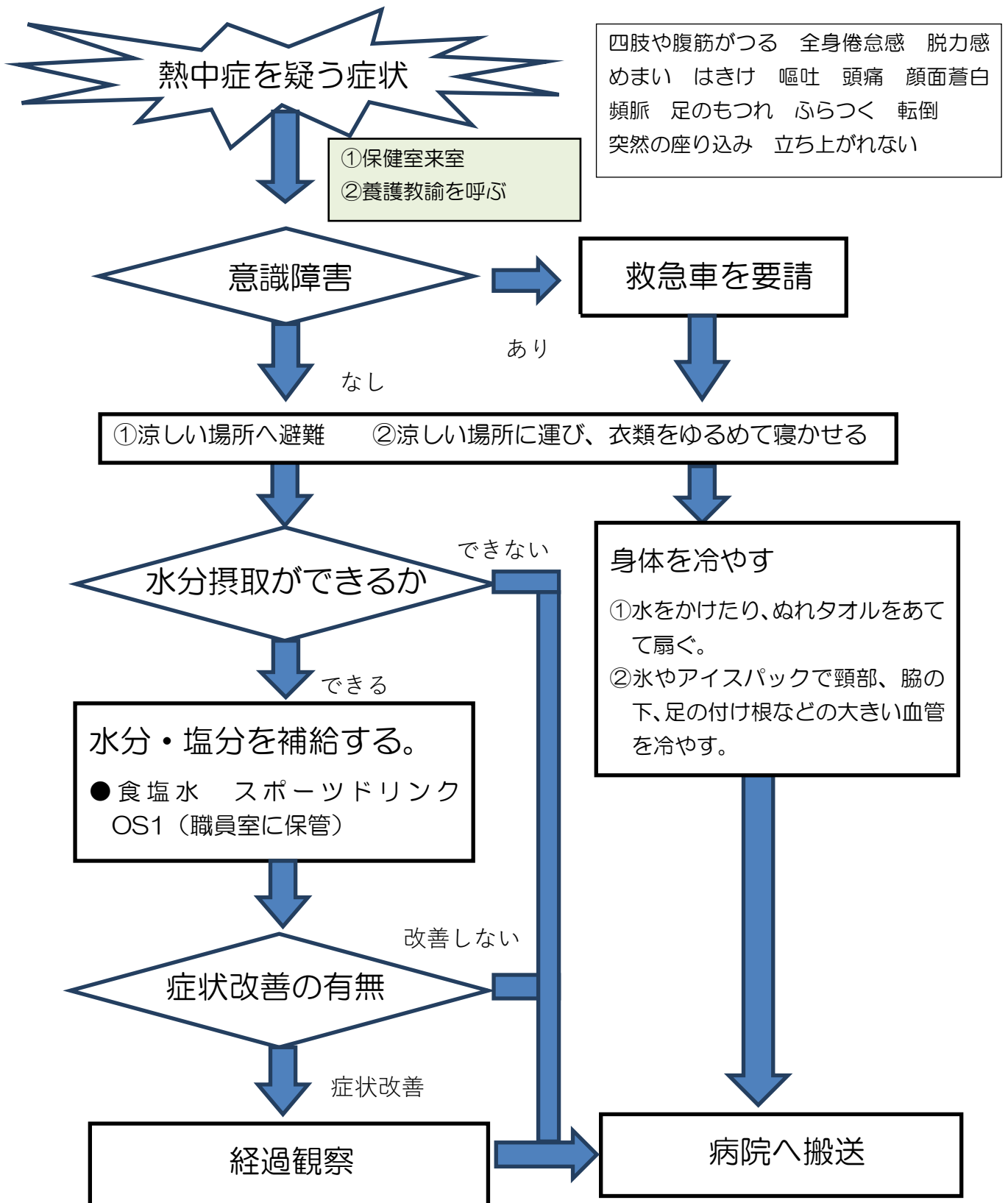
3 事前の体調管理の徹底

（健康観察、準備運動など）



熱中症発生時対応マニュアル

諸塚村立荒谷小学校



感染症対応マニュアル

1 感染症の早期発見

(1) 健康観察の徹底

37.5℃以上または平熱+1℃の発熱、咳、鼻水、くしゃみ、倦怠感などの症状、嘔吐や下痢、発しんなどの感染症が疑われる症状が見られた場合は、保健室へ。経過観察し、改善しなければ早退を検討する。(症状のある児童は、給食配膳は控える、必要に応じて学級給食を検討する。)

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、健康観察カードを配付し毎朝提出する。(R3, 4現在)

(2) 手洗い・うがいの徹底

こまめな手洗い・うがい、手指のアルコール消毒を行う。(登校後、外出後、給食前等)

(3) マスクの着用

咳やくしゃみ、鼻水等の症状がある場合、家族で感染症にかかっており、感染の疑いがある場合等。

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、常時着用(R3, 4現在)

(4) 換気と加湿

1時間に1回の換気と(冬のみ)加湿を行う。

2 感染症発生時の対応

体調不良を訴える児童

37.5℃以上または平熱+1℃の発熱、咳、鼻水、くしゃみ、倦怠感などの風邪の症状、嘔吐や下痢、発しんなどの症状

担任

- 1 健康観察または口頭にて養護教諭へ報告する。
- 2 同様の症状のある児童がいる場合は、他の児童との接触をなるべく避ける。
- 3 クラス内の他の児童へ予防を呼びかけ、体調の変化に注意する。

養護教諭

- 1 救急処置
- 2 健康観察等により、学校全体の状況を把握。
- 3 管理職へ報告する。必要に応じて学校医・保健所へ相談。
- 4 他の児童・職員、保護者へ感染予防の注意喚起、情報提供をする。

管理職

- 1 全体の把握と指示。
- 2 必要に応じて学校医へ相談し、出席停止、臨時休業の指示。

全職員

上記1の『感染症の早期発見』の4点を徹底し、感染拡大防止に努める。

早退 【保護者への伝達事項】

- ①必ず病院受診する。
- ②受診結果を学校へ連絡する。

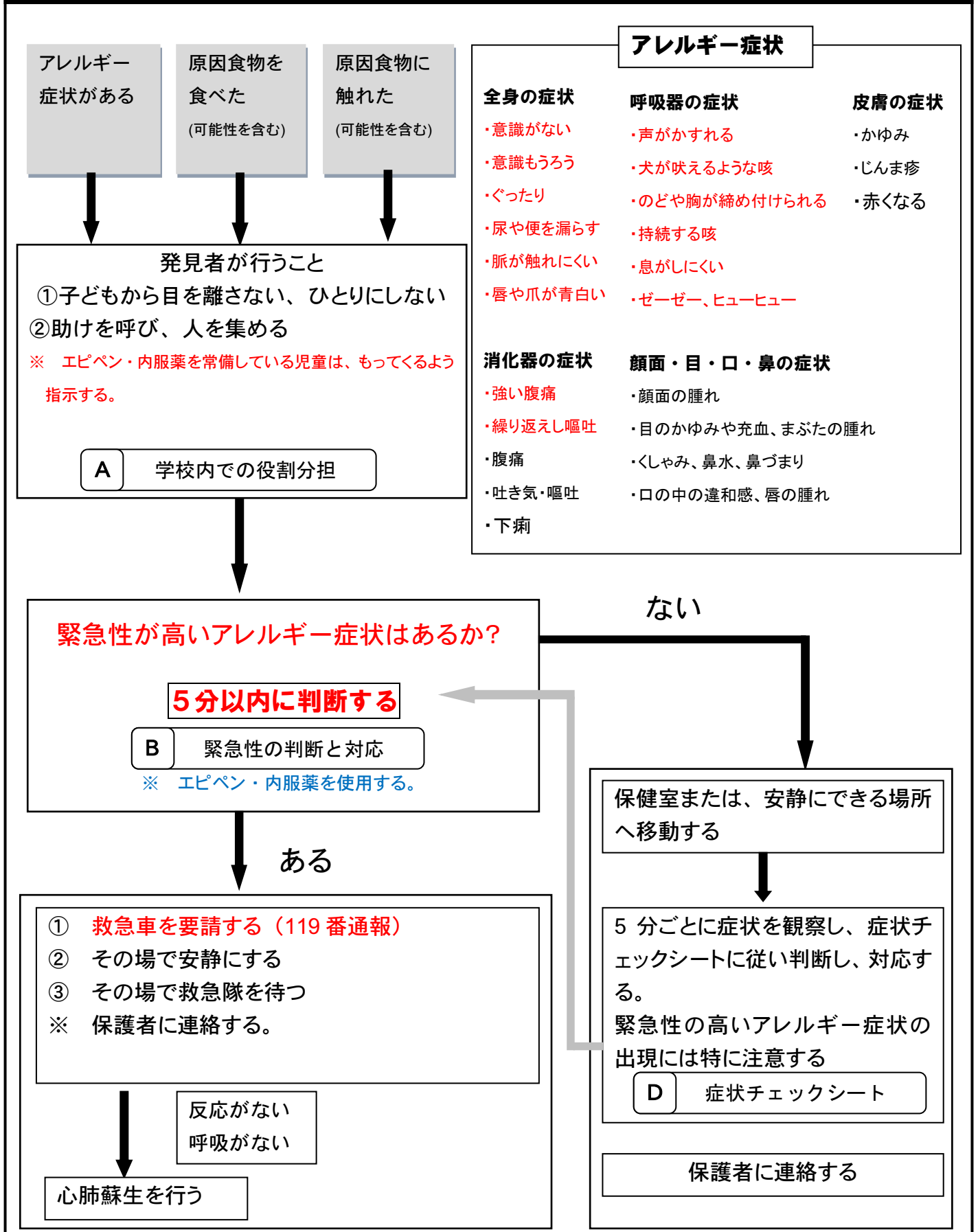
※ 臨時休業について

感染症の蔓延防止のため、以下の状況が認められる時には臨時休業の検討を行う。(管理職、保健主事)

- ① 欠席状況(目安としては全体の3分の1~2分の1、流行状況等)
- ② 保健室利用状況(早退、不調者が多い等)
- ③ 健康観察の結果(感染症罹患の疑いのある児童が多い、家族に罹患者がいる等)

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順



アレルギー
症状がある

原因食物を
食べた
(可能性を含む)

原因食物に
触れた
(可能性を含む)

アレルギー症状

全身の症状

- ・意識がない
- ・意識もうろう
- ・ぐったり
- ・尿や便を漏らす
- ・脈が触れにくい
- ・唇や爪が青白い

呼吸器の症状

- ・声がかすれる
- ・犬が吠えるような咳
- ・のどや胸が締め付けられる
- ・持続する咳
- ・息がしにくい
- ・ゼーゼー、ヒューヒュー

皮膚の症状

- ・かゆみ
- ・じんま疹
- ・赤くなる

消化器の症状

- ・強い腹痛
- ・繰り返し嘔吐
- ・腹痛
- ・吐き気・嘔吐
- ・下痢

顔面・目・口・鼻の症状

- ・顔面の腫れ
- ・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ
- ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり
- ・口の中の違和感、唇の腫れ

発見者が行うこと

- ①子どもから目を離さない、ひとりにしない
- ②助けを呼び、人を集める

※ エピペン・内服薬を常備している児童は、もってくるよう指示する。

A

学校内での役割分担

緊急性が高いアレルギー症状はあるか？

5分以内に判断する

B

緊急性の判断と対応

※ エピペン・内服薬を使用する。

ある

- ① 救急車を要請する (119番通報)
 - ② その場で安静にする
 - ③ その場で救急隊を待つ
- ※ 保護者に連絡する。

反応がない
呼吸がない

心肺蘇生を行う

ない

保健室または、安静にできる場所
へ移動する

5分ごとに症状を観察し、症状チ
ェックシートに従い判断し、対応す
る。
緊急性の高いアレルギー症状の
出現には特に注意する

D

症状チェックシート

保護者に連絡する